令和７年３月 20 日 発行　第３６号

郷　土　の　か　ぜ

仙 台 市 民 図 書 館　郷土資料コーナーから

西公園の桜並木について

仙台市民図書館郷土資料担当 渡邉 啓市

仙台の桜の名所といえば、桜並木がある西公園を思い浮かべる方も多いと思いますが、この桜並木はいつ頃から植えられてきたのでしょうか。西公園は 1875（明治 8）年に開園。大正時代発行の『仙臺市寫眞帖』では、「梅、桜、藤、萩等植えられており、桜花は榴岡の美観に準ずる」と書かれており、少なくとも大正時代には桜の名所のひとつであったと考えられます。

昨年、「現在は取り壊されてしまった西公園の旧仙台市天文台前に日時計が建っていて、そこに仙台市長、島野武の名前で「及川房雄氏桜樹植栽満 20 年記念設置　昭和49年 4 月 1 日」との文が添えられている。この及川氏とは誰なのか」との質問がありました。

そこで、この日時計について調べてみると『仙台市天文台 50 年のあゆみ』の年表欄に「1974（昭和49）年 4 月 19 日、天文台前庭に及川房雄氏桜樹植栽満 20 年記念の日時計完成」とあり、編集後記の下段にも、日時計の写真に添えて「昭和 29、30 年、及川房雄氏は、仙台市復興のため緑化に尽くされ、西公園並びに青葉城址一帯にソメイヨシノ約 300 本を寄贈した。その桜樹植栽 20 年を記念し、天体観測の場所に日時計を設置した」との説明が書かれていましたが、この人物が何をしていた方なのかは記載されていません。

この及川氏の氏名を「国立国会図書館デジタルコレクション」（国立国会図書館で収集・保存しているデジタル資料を検索・閲覧できるサービス）で検索してみたところ、同じ名前の人物が仙台に住んでいたことがわかりましたが、残念ながら、西公園に桜樹を植栽した方だったのか確証を得るような内容のものは見つかりませんでした。

ちなみに、新聞の記事を検索できる「河北新報データベース」で氏名を検索すると、2007（平成 19）年 12 月 18 日付朝刊「地下鉄東西線工事で伐採桜は切られテーブル残す」との記事がヒット。地下鉄東西線の建設で伐採された桜の木を椅子やテーブルにして販売し、その売上金で新たに桜を植樹する取り組みが紹介されていましたが、その中で「西公園の桜は戦後間もない 1949～1950 年、篤志家の故及川房雄さんが戦争で荒廃した公園にソメイヨシノ300本を植樹したのが始まり」との記載がありました。

結局、及川氏が何をしていた方だったのかは確認できませんでしたが、彼の植樹によって復興を遂げた西公園の桜並木は、厳しい冬の寒さに耐えて、もう少しで、私たちの目の前に美しい桜の花々を咲かそうとしています。

＜参考図書＞

『仙台市天文台 50 年のあゆみ』 仙台市天文台／編 仙台市天文台 S442セ
『仙臺市寫眞帖』 仙臺市役所 仙臺市 S29.1セ

■ある日のレファレンスから

椎浪真平氏が河北新報朝刊に連載している「仙台はジャズとともに」の 2024（令和6）年 11 月 18 日付紙面のなかで「「グランドキャバレー タイガー」があった場所には今、せんだいメディアテークが立つ。建物の前にある定禅寺通に面した変圧器のプレートが、当時の名残りを伝えている」と綴られていました。

その「グランドキャバレー タイガー」について、イベント展示のため、写真資料を探してほしいと頼まれたことがありました。いろいろと資料を引っ張り出して探してみたものの、そのときはどうしても見つけることができず、結局、当時経営していた会社の社史にあった白黒写真を借りて展示したということがありました。

しかし、先日、別のあるレファレンスで使用した資料の中で、偶然建物のカラー写真を発見。それは、地元の建築会社の百年の歩みを記した資料の写真の一つで、昭和 45 年撮影とありました。この資料は市民図書館の郷土資料コーナーにありますので、ご覧になりたい方はカウンターまでお声掛けください。

■新着図書紹介（郷土・参考資料コーナーに新しく入った図書）

『昭和 40 年の仙台・塩竈地図帖「仙台塩竈精密案内地誌」復刻版，デフォルメされた手描き地図とレトロな広告』

イーピー風の時編集部／編　イーピー風の時編集部　R291

現在の住宅地図とは違い、手書きで書かれた地図帖で、それがかえって昭和を感じさせる雰囲気を醸し出しています。

当時の日本は急激な経済成長を遂げ、各地で企業や商品の PR、観光を目的とした、いわゆる商業ベースの住宅地図が作成されていたようです。

この地図帖も、企業広告が多く載っているのですが、一部のオフィスビルや商業ビルには各階別のテナント名まで掲載されています。当時のお店を思い出して懐かしむことができたり、現存するお店のなかにも、現在とは違う意外な場所で商売していたりと驚きもある一冊です。

『ガラス図鑑 歴史・技法・名品』

岡崎 孝俊／監修　平凡社　R751 カ

ガラスは、コップや窓ガラス、食品が入っている瓶など、日常生活の至るところで使われていますが、ガラスについて私たちはどれほど知っているでしょうか。ガラスの歴史は古く、なんと紀元前まで遡ります。日本でのガラスの起源は判明していませんが、中国や東南アジアから輸入したと考えられるガラスを加工した玉類（勾玉（まがたま）やとんぼ玉など）が古墳に副葬されていて、弥生時代にはガラスがあったことが確認されています。

本書は、工芸品や美術品としてのガラスを中心に紹介されています。世界中のガラス工芸の歴史や制作方法などをじっくり読んで学びを深めるほか、ページをパラパラめくって美しいガラス作品の写真を眺めても楽しめる充実した一冊です。

■編集後記■ 仙台市歴史民俗資料館の特別展「仙台駄菓子と石橋屋」が 4 月 13 日（日）まで開催されています。以前「郷土のかぜ」第 31 号で閉店した石橋屋を取り上げましたが、この特別展では石橋屋店主であった石橋幸作氏が書いた貴重な駄菓子のスケッチや粘土細工、駄菓子を作る際に使用した道具等を展示しています。また、石橋氏が執筆した本（図書館にも所蔵されています）や冊子、講演やテレビ、ラジオの出演記録なども展示していますので、この機会に訪れてみてはいかかでしょうか。

発 行：仙台市民図書館 郷土・参考資料コーナー
所在地：仙台市青葉区春日町2－1せんだいメディアテーク内 TEL：022-261-1585